



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和6年 8月 28日
第 6 号
さいたま市立日進中学校
TEL 048-663-1251
FAX 048-663-0834

『日進の当たり前』

校長 小熊 誠

熱く、暑い 39 日間の夏休みが終了しました。生徒たちは、それぞれの「日進夏の陣」を闘い抜きました。そして、パリオリンピックの選手たちの活躍に負けずとも劣らない素晴らしい活躍と、輝きを放ってくれました。

部活動では、男女バドミントン・男子卓球・柔道女子・陸上女子が関東に駒を進め、男子バドミントンの団体と個人・女子陸上走り幅跳び、女子水泳 50m と 100m の自由形で全国の舞台に立ちました。そして、女子水泳 100m では、全国 5 位に入賞し、国民体育大会への出場も勝ち取りました。アップで日進体操を踊り、試合前の円陣の「日進中 前へ」で心を奮い立たせ、勝負に挑んだ生徒たち、私たちの自慢の生徒たちです。私も、埼玉県だけではなく、東京・群馬・石川・福井と飛び周らせていただきました。本当に楽しいひと時でした。文化部では、吹奏楽部と演劇部がコンクールに臨み、魂のこもった演奏と演技を披露してくれました。吹奏楽部の演奏は、音色に合わせ、ステージの生徒たちの動きが一つになり、一体感を感じました。演劇部の演技は、その内容に会場全体が引き込まれ、私も含め、多くの方が涙していました。残念ながら次のステージには進めませんでしたが、記憶に残る作品となりました。美術部の作品展が文化センターで開催され、個性いっぱいの作品で彩られ、特別優秀賞を始め、たくさんの賞を受賞しました。2 学期には、科学部は理科展や発表会、華道部はイオンでの展示会、英語弁論大会では中央大会が待っています。生徒たちのさらなる輝きに御期待ください。

学校選抜の駅伝では、1 年～3 年まで総勢 101 名。夏休み 11 回の練習を走り切りました。昨年、一昨年度の先輩たちも激励に訪れ、一緒に走ってくれたり、熱い言葉を後輩たちに残してくれたりしました。繋がりを感しました。ここから、新たな伝統が始ります。

学習でも各学年や各教科で、勉強会や、個別の学習会が早朝から実施され、それぞれ目標に向かい、自分自身と闘ってきました。

毎年恒例の一大イベントである日進七夕まつりでは、美術部や広報委員会が中心となり、作品を創り上げました。当日は激しい豪雨のなか、実行委員長賞と行燈絵画優秀作品賞をいただきました。

生徒会は、「ストップいじめ！子どもサミット」において、「日進スマイル委員会」の取組を発表し、各学校から絶賛され、大きな存在感を示しました。

そして、何より嬉しいのは、生徒たちの心の成長です。先日も、ソフトボール部の生徒が、正門の前で倒れていた方に寄り添い、学校に訪れていた保護者の皆様と協力し、救急車を呼び、人命救助に貢献しました。日進では、こんな素晴らしい勇気ある行動が「当たり前」のことなのです。そんな私たちの日進が、さらに前に、より高いステージに向かうために、今回のパリオリンピックで大躍進を遂げたフェンシングの話を紹介します。

保護者・地域の皆様、私たちが、右のフェンシングの指導者のようになるのは難しいかもしれません。しかし、日進の「当たり前」のさらなるレベルアップのために、生徒たちの日常生活から意識を変え、少しずつ高い位置に照準を合わせさせていくことは、私たちの使命です。私たちも全力で尽力して参りましょう。それが私たちの宝である生徒たちの「当たり前」を、日進の「当たり前」を進化させ、生徒たちを、学校の主役から、地域の主役へと「メガ進化」させるための大切な第一歩となるはずです。

皆様、今日から 80 日間の 2 学期が始まります。どうぞ、よろしくお祈りします。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校

フェンシングは「突然強くなったわけではない」。今までは、「国際試合出場が凄い」「世界選手権に呼ばれることが凄い」そんな認識で、「フェンシングは、ヨーロッパのスポーツ。日本人には勝てないのでは」そんな先入観があった。それを変えたのが、指導者による「当たり前」の変化だ。「当たり前」のレベルを変えることは難しい。しかし、日常生活から、意識を少しずつ高い照準に合わせていくと、徐々にそれが「当たり前」になってくる。この日々の意識の改革が今回の活躍に繋がった。